

2021年4月30日(金)

老球の細道607号

4月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

コロナのおかげで、私が子どもの頃は「8時だよ全員集合」だったのが「今は8時だよ全員解散」になった。大都市圏では緊急事態宣言がまた発せられた。福島も明日は我が身か。せっかく孫が幼稚園にスムーズに行くようになり、ゴルフの松山英樹、NBAの渡邊雄太の活躍などで「夢を目標へと変えた瞬間、理想の姿に近づいていく」という言葉が身近になってきたというのに、このままだと東京五輪は「無観客」から「無選手」か？

そんな心配の中、鶴ヶ城の桜を今年も無事鑑賞することができた。あと何回見られるか。

1・テレビから

◆「育てられないんですよ。育てて来よるんですよ。育てるなんておこがましいことできないんです。みんなそれぞれで、それぞれががんばってやっているから」〈NHK『プロフェッショナルの流儀』：伝説のお笑い講師・育ての極意〉：吉本興行お笑い専門学校講師の言葉である。彼の指導を受けたくて有名な大物芸人が今でも訪ねて来るという。どこの世界でも教え子が有名になると「俺が育てた。面倒を見た」という指導者が多い中謙虚である。

2・読書から

◆「青空を仰ぎたい。太陽の光を全身に浴びて、大地を心ゆくまで踏みしめたい。すがすがしい新緑の木の葉の匂いを肺臓一杯吸いたい。そして精一杯働きぬきたい。人はすべてを失ったときこの心が湧く」〈高橋正衛著『二・二六事件』中公新書〉：二・二六事件に連座した死刑囚の言葉である。何事も、無くなってからその大切さに気がつく。人はいつか必ず死ぬ。その時その時悔いを残さず全力で取り組む。桜を見る、孫と遊ぶ、人と話す等。

3・新聞から

◆「無形の蓄積。机の前に原稿用紙を広げて座ったけど、何も頭に浮かんでこねえから今日はやめたっていうことが、僕もよくありました。だけど、机の前に座ったということは残るわけで、次の作品に必ず影響がある」〈朝日：多事奏論〉：一文字も書けなかったという結果は同じでも、机に座ったのと座らず寝たとでは格段の違い。目に見えない、人にわからないが10年たったらまるで違うという。似たようなことはバスケットでもないだろうか。

◆「言葉がとても上手な方で、お前は強くなるぞ、世界一になるぞ、ということを365日言い続ける。本人がその気になるまで言い続ける」〈朝日：五輪をめぐる：高橋尚子〉：かつてキャンディーズが“その気にさせないで”と歌っていたが、選手をその気にさせなければ指導は響かない。「つまずいた石ころを拾い上げたら金メダル。簡単なことなんです」と小出監督。ほめることは簡単かもしれないが、ほめ続けること、言い続けることが難しい。

◆「起こったことはみんないい事」〈朝日：著者に会いたい：萩野アンナ〉：たまたま起こることにうろたえないが私の日常訓である。天災は別だが全ては受け取り方次第だという。血圧が高い、腰痛、バスケットができない、飲み会がない、みんないい事と言い聞かせる。